令和４年（2022 年）

# 令和２年度内部モニタリング結果を受けての<br>令和３年度における対応について

豊中市伊丹市クリーンランド内部評価委員会における令和 2 年度の内部モニタリング評価結果を受け、令和３年度に行うこととしていた各対応について、下記のとおり実施いたしましたので、報告いたします。

| リサイクルプラザ | | | |
|---|---|---|---|
| | 令和３年度における対応 | 具体的取り組み内容 | 取り組み結果（効果） |
| 資源化について | ・プラスチック製容器包装に混入する充電式電池を内蔵する小型家電製品が増えている。引き続き両市と搬入物検査を実施し、不適正品目の混入低減に向けた啓発を行うとともに、資源化率の向上に努める。 | ・搬入物検査の従事作業人員を減らすとともに、検査品目を縮分するなど、新型コロナ感染防止に努めながら、両市と協働の下、プラスチック製容器包装と不燃ごみの搬入物検査を実施し、適正搬入の推進を図った。 | ・コロナ禍の影響により、予定していた検査回数には及ばなかったが、プラスチック製容器包装（5 回）と不燃ごみ（5 回）の搬入物検査を両市と協働して実施し、搬入物の適正化を図ることによる資源化率の維持向上に繋がった。 |
| 事故・故障について | ・手選別業務における労働災害ゼロを継続するため、受託者に対して保護具の検証や作業手順の徹底を引き続き指示する。 | ・手選別作業に用いる手袋の改善や二重に着用するなどの対策を継続し、針刺し事故を防止するとともに、充電式電池等の発火による目の負傷防止の観点から、防塵グラスを着用して作業に従事している。 | ・新型コロナ感染防止対策として、手選別作業員を少人数のグループに編成し、他のグループ作業員との接触を抑えるなど、引き続き事故や感染防止を図ることができた。 |
| | ・充電式電池を内蔵する小型家電製品の拠点回収について協働して啓発し、リサイクルプラザの火炎検知件数低減を図るとともに、更なる消火設備増強工事を検討するなど、施設の安定稼働を維持する。 | ・両市と情報共有しながら、連携してホームページや広報誌、動画配信などにより、リチウムイオン電池やそれらを内蔵する小型家電製品の適正な排出方法の啓発を継続して行った。 | ・火炎検知件数の低減が期待される小型家電回収ボックスの活用促進を両市に依頼するとともに、リチウムイオン電池やそれらを内蔵する小型家電製品の適正な排出に向けた市民啓発を継続して行うことにより、火炎検知件数は増えているものの、概ね施設の安定稼働を図ることができた。 |

| リサイクルプラザ | | | |
|---|---|---|---|
| | 令和３年度における対応 | 具体的取り組み内容 | 取り組み結果（効果） |
| 環境学習・啓発について | ・引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を注視し、施設見学やイベントの安全な開催について検討し準備する。<br>リサイクルプラザと焼却施設、クリーンランドひろばを合わせた効果的な環境学習メニューを企画・実施することにより、来場者の増員を図る。 | ・コロナ禍により施設見学に来場できなかった小学校を対象に、施設紹介 DVD を配布するとともに、内 1 校ではオンライン授業を開催した。<br>・クリーンランドひろばにおいて環境学習に関連したイベントを毎月 1 回開催することにより、ごみの減量や分別啓発を実施した。 | ・コロナ禍により施設見学に来場できなかった小学校に配布した DVD を活用していただいた他、オンライン授業の開催と併せて学習の機会を提供することができた。<br>・クリーンランドひろばを活用した環境学習に関連したイベントを開催することにより、啓発効果と併せて来場者の増員に繋がった。 |

令和４年（2022 年）

令和２年度内部モニタリング結果を受けての
令和３年度における対応について

豊中市伊丹市クリーンランド内部評価委員会における令和 2 年度の内部モニタリング評価結果を受け、令和３年度に行うこととしていた各対応について、下記のとおり実施いたしましたので、報告いたします。

| ごみ焼却施設 | | | |
|---|---|---|---|
| | 令和３年度における対応 | 具体的取り組み内容 | 取り組み結果（効果） |
| ごみ焼却施設について | ・焼却量については、コロナ禍の影響により、実績搬入量が計画搬入量対し増減することや、搬入ごみの高カロリー化の影響で焼却量が低下することが考えることから、焼却量については、状況に応じて年度途中に運転計画の変更を行う可能性がある。<br>引き続き状況に応じた運転計画の見直しを行い安定的な運転管理に努める。 | 毎月の焼却炉の運転計画と運転実績から現状を把握して、翌月以降の運転計画に反映させて安定的な運転管理に努めた。 | 年度当初の運転計画とは異なる結果となったが、概ね変更した計画どおりに焼却炉を運転することができた。 |
| | ・ごみの搬入量の増減についてもコロナ禍の影響を考慮し、定期的にごみピット堆積量の補正を行い、以後の運転計画に反映させる。 | ・８月の３号炉停止から全炉停止前と３月の次年度の年度当初の計画に合わせ、ごみピット堆積量の補正を行い、運転計画に反映させた。 | ・ごみピットにおける堆積量の計算値と実績値に誤差があったため補正を行った。このことで、８月以降及び次年度のごみピットの堆積量が正確に把握できるようになり、運転計画に反映することができた。 |
| 環境について | ・排ガス・排水などの全ての項目において、年間を通して基準値を満たせるよう測定値の推移を確認し、適正な維持管理と運転に努める。 | ・排ガス、排水の各測定値については、項目ごとのデータ確認と推移確認を行った。 | ・排ガス、排水のすべての項目において基準値を満たす結果となった。 |

| ごみ焼却施設 | | | |
|---|---|---|---|
| | 令和３年度における対応 | 具体的取り組み内容 | 取り組み結果（効果） |
| 事故・故障について | ・定常外作業時に労働災害が発生しているため、再度作業前のミーティングで作業に潜む危険予知とその対策を行い、作業者全員で確認してから作業を行う。 | ・特に定常外作業では労働災害が発生しやすいため、作業前のミーティングを行い、作業者全員で安全確認を行った。 | ・労働災害は年度内に 1 件発生した。引き続き作業前ミーティングを実施するとともに、業務に見合った作業マニュアルを作成し、定期的に点検と見直しを行い、労働災害ゼロをめざす。 |
| | ・日常点検や補修記録などからのデータを基に各種整備・機器の予防保全に努める。 | ・日常点検や修繕などからなるデータを基に、各機器の保守点検整備や定期補修工事を行い、機器・設備等の性能維持を図った。 | ・焼却炉が停止に至るような事案はなかった。 |
| 資源化について | ・引き続き、この間の蓄積したデータ等を踏まえ、安定的、効率的な施設の稼働と高効率で安定した発電量も確保できるように年間の運転計画の作成に取り組む。 | ・コロナ禍の影響でごみの搬入量が計画値より減少したが、運転計画の見直し等により、焼却量だけでなく、発電量も考慮した運転管理を行った。 | ・ごみの搬入量が計画値より減少したが、過去のデータを基に、運転計画等の変更により、安定した発電量を維持することができた。 |